

## 高温が続いています！ 中晩生品種では水管理と追肥で栄養維持を！

### 1. 水管理の徹底！

出穂前後各3週間は、品質向上とカドミウム吸収抑制対策のため、湛水管理を行いましょ。う。

出穂期以降は、稲が最も水を必要とする時期です。この時期に水が切れると白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。

収穫作業に支障のない範囲で、出来る限り遅くまで入水しましょ。う。

### 2. 追肥を施用し、稲の栄養維持！

高温が続いていることから、これから出穂期を迎える中生以降の品種は、稲の栄養が不足して、登熟が阻害され白未熟粒の発生が懸念されます。稲の栄養維持のため、追肥を施用しましょ。う。

		施用時期 等	施用量
全量基肥 体系	—	<b>出穂 1 1 日前～出穂 4 日前</b> (穂ばらみ期～走り穂)	<b>窒素 成分量 1～2 kg/10a</b>
分施体系	倒伏しにくい 品種	<b>1 回目の穂肥の 1 0 日後</b>	
	倒伏しやすい 品種	<b>2 回目の穂肥(穂肥 1 回目の 7 日後) を窒素成分量 1～2 kg/10a 増量</b>	

- 施用量が多いと玄米タンパク質含有率が高まるため、食味の低下が心配されます。上記の施用量としてください。
- 「環境こだわり農産物」のほ場では、認証基準を守ってください！  
認証基準；**化学肥料の窒素成分量 4 kg/10 a 以内**
- 現在、葉色が濃いほ場では、必要ありません。

作業は気温の高い時間帯を避け、こまめに塩分・水分を補給し休憩を行いましょ。う！